

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103177
法人名	株式会社 モロコケア
事業所名	グループホームじゃんけんぽん
所在地	愛媛県松山市古川北3丁目12番29号
自己評価作成日	H25年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者様とのコミュニケーションは良くとれていると思います。希望を叶えられるよう、努力しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●この一年間は、地域とのつながり作りに力を入れて取り組まれた。回覧板で情報を得て、地域行事や近くにある松山市南部児童センターのイベントに参加された。又、今夏は、初めて地域の盆踊り大会に利用者と職員で出かけられ、地域の方達の輪に入り、一緒に踊り楽しまれた。運営推進会議等で顔見知りになった方に声をかけてもらったり、地区の班長とも知り合せて、今後、事業所の避難訓練に参加いただけるよう、約束もできたようだ。</p> <p>●前回の外部評価をきっかけに、利用者個々の担当職員が、毎月、利用者の日中の過ごし方等を手紙にして、ご家族へ送付することを始めておられる。</p> <p>●華道の免許をお持ちの利用者の方は、職員が庭で摘んだお花等を用意されると、ご自分で生けて居室に飾られるようだ。職員とご自宅に戻り、大切な本等を持ち帰り、読書する方もいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

じゃんけんぼん

(ユニット名)

ゲーユニット

記入者(管理者)

氏名

今村タマキ

評価完了日

25 年 7 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 一人ひとりが尊重され、明るく楽しい生活が出来るよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所開設時より、「ひとりひとりが尊重され、健康で安全と自由があり、互いに支え合いながら、明るく楽しく生活ができる安らぎの家」と理念を掲げておられ、居間に掲示をされている。職員は、掲示されている理念を見て、それぞれに理解し、歌を歌ったり体操する時間を作り、利用者が笑うようなかわりを心がけ、「明るく楽しい生活」が送れるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の傾聴ボランティアの方が2週間ごとに来られ、利用者の話を聞いてくださったり、中学生の職場体験を受け入れたりしている。	
			(外部評価) この一年間は、地域とのつながり作りに力を入れて取り組まれた。回覧板で情報を得て、地域行事や近くにある松山市南部児童センターのイベントに参加された。又、今夏は、初めて地域の盆踊り大会に利用者と職員で出かけられ、地域の方達の輪に入り、一緒に踊り楽しまれた。運営推進会議等で顔見知りになった方に声をかけてもらったり、地区の班長とも知り合えて、今後、事業所の避難訓練に参加いただけるよう、約束もできたようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 推進会議で認知症高齢者見守り・SOSネットワークについてお知らせし、自施設も協力機関として登録している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 職員、ご家族、利用者、地域の方が参加し、意見交換している。</p> <p>(外部評価) 会議は、事業所建物2階にあるデイルームで開催されており、利用者やご家族、民生委員、市の担当者の方等が参加されている。会議時には、ユニットごとに日常の様子を報告され、又、外部評価結果をもとに今後の取り組みを発表されたり、さらに、「転倒予防」「高齢者虐待」「熱中症予防」等、テーマを決めて参加者とともに勉強をされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 電話でのやり取りや、推進会議や指導時に実情を伝えている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワークに登録をしておられる。管理者は、他事業所の運営推進会議に参加されたり、又、地区の同業者同士の集まりに参加し、行事等には利用者も一緒に行き来をされている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来るだけ身体拘束のないように月1回話し合っている。</p> <p>(外部評価) 夜間、目が覚めご自分で立とうとして転倒する心配がある利用者一名の方に、現在、ベッド柵を付けている。センサーマットや鈴を付け、対応を試みられたが、間に合わないこともあり、ベッド柵を使用することになったようだ。今後も、拘束のないケアの実践に向けて、事業所理念にもある「安全と自由がある生活」について職員で話し合いながら、支援に工夫を続けていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会を設け、言葉遣いや介助時の力の入れすぎなど、いき過ぎないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会があったが、全てを把握しきれていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者様や家族の方の不安や疑問については、話を良く聞き、説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) イベント時の家族会や、面会時に話された内容や意見は管理者や職員で話し合っている。 (外部評価) 前回の外部評価をきっかけに、利用者個々の担当職員が、毎月、利用者の日中の過ごし方等を手紙にして、ご家族へ送付することを始めておられる。ご家族来訪時には、サービスへの要望をお聞きするが、ケアマネジャーや管理者である法人代表者に直接相談等されるご家族もいる。現在、ご家族からは外出支援の要望が多く、ユニットごとに、今年度の行事・外出計画を立てておられた。ご家族同士の親睦を深めてもらおうと、10月には「観月祭」として「家族会」を行うことを考えておられた。	ご家族が来訪しやすい事業所の雰囲気作りへの取り組みを重ね、ご家族との関係をさらに深めていかれてほしい。又、ご家族と一緒に活動するような機会を積極的に作り、事業所の取り組みを具体的に知ってもらいながら意見をうかがったり、協力してもらったりできるよう、働きかけていかれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			運営に関しては良くわからないが、月1回ユニット会を開き、出された意見をリーダー会で話し合っている。	
			(外部評価)	
			この一年間は、職員のスキルアップに努められた。毎月、職員1名が外部研修を受講してミーティング時に、職員全体で共有できるよう仕組みを作られた。又、ミーティング時には、利用者の誕生日の企画について話し合っておられ、プレゼントとケーキを用意し、職員が出しものを披露してお祝いをされている。	職員が一丸となって理念の実践に取り組むためにも、管理者である法人代表者は、機会あるごとに理念について語り、アイデアや提案を引き出していかれてほしい。さらに、管理者は、職員、又、ご家族や地域の方等と一緒に活動したり、話し合ったりする機会を増やして、チームワークをさらに作っていかれてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			労働時間、給与基準はあまり考えられていないように思う。そのため、各自が向上心を持って働くことが出来ない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			定期的に職員は研修を受けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修会や運営推進会議、行事参加などで交流している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用者様の要望や訴えなどは良く聞いて、安心できるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 先ず、要望などを聞き安心してサービスが受けられるようにしている。面会時なども、話しを聞き、良い関係が保たれるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談は受け入れ、その時々で対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔話を聞かせていただいたり、レクリエーションを一緒にしたり、交流を深めながら、お互いに信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 関係構築のため努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 手紙や電話、面会などの支援をしている。 (外部評価) 華道の免許をお持ちの利用者の方は、職員が庭で摘んだお花等を用意されると、ご自分で生けて居室に飾られるようだ。職員とご自宅に戻り、大切な本等を持ち帰り、読書する方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のつながりを強化するため、職員が橋渡しを行う努力はしている。時に困難なケースもあるが、その時は声かけを多くしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 出来ている場合と、そうでない場合がある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望や意向に耳を傾けているが、十分対応し切れていないところもある。 (外部評価) 利用者に「ぬり絵をしてみませんか」「トランプをしてみませんか」と声をかけてチャレンジしてみる機会を作り、利用者のできることや興味のあること等を探っておられる。利用者とのかわりから得た情報は、日々の介護記録に記入するようになっている。	さらに、今後は利用者の自発的な言葉を書き留めて、個々の思いや意向の把握に取り組みたいと考えておられる。利用者大切にしていることやこだわり等を知り、ご本人らしい暮らしを継続していけるような支援に取り組みしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントの内容の伝達により、生活環境などを把握している。入所後も本人や家族に確認している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケアプランに沿って一人ひとりの記録をし、状態の把握に努めている。利用者の状態の変化によって、プランの変更をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月に1度のミーティングで意見やアイデアを出してもらい、ケア計画を立てている。</p>	<p>利用者が地域の中に出かけて、さらに生活を拓げていけるよう、地域資源と利用者をつなげるような介護計画の作成にもチャレンジされてほしい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>体操やゲーム等、利用者のできることや興味のあること等を行なえるよう、介護計画の内容に挙げておられる。遠慮がちな利用者には、お好きなテレビ番組を見られるよう声をかけることや、回廊になっているユニット内を車いすを押したり、ご自分で歩いて回り、運動することを計画に挙げている方もみられた。計画内容に沿って、毎日、実践状況を「○・／」でモニタリングして評価につなげるようになっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子、言動を日誌に記入し、申し送りを受けている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>傾聴ボランティア利用やデイサービスのレクリエーションに参加している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりに合ったケアを行い、利用者それぞれのペースを保てるよう支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりに合ったケアを行い、利用者それぞれのペースを保てるよう支援している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりに合ったケアを行い、利用者それぞれのペースを保てるよう支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりに合ったケアを行い、利用者それぞれのペースを保てるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 通院や往診時に適切な指示を頂いている。詳しい検査が必要な場合は、総合病院へ受診している。	
			(外部評価) 職員は、週2回の「歌会」や食事の量・食べ方等からも利用者の状態変化について、早期発見できるよう努めておられる。いつもと変わった様子がみられた時には、看護師資格を有する職員に報告されたり、又、協力医へ報告して、指示を仰ぎ対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の変化があれば、看護師にすぐに報告をし、適切な指示を受けている。看護師の判断で主治医や家族に病状を報告している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 看護師や介護支援専門員が行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階で家族様の希望を聞き、主治医からの説明を受けてもらい、今後の方針を共有し、チーム支援をしている。	
			(外部評価) この一年では、1名の利用者の看取りを支援された。事業所では、痰の吸引等、医療行為は行わないこととしておられ、職員は、最期まで、「口から食べるための努力をする」ことに力を入れて取り組まれた。ご家族は、頻回に来訪のある方でもあり、又、職員も頻回に居室を訪ねて室温管理をされたり、「ご本人がさみしくないような対応」に配慮して取り組まれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の連絡体制を整え、迅速に対応出来る様になっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 日中、夜間想定で訓練を行っている。近所の方にも参加してもらっている。	
			(外部評価) 3月には、事前に計画を立て近所の方達にも参加いただき、避難訓練を実施されたが、8月の消防設備点検があった際には、消防署の方からの提案もあり、急きょ、日中の火災を想定して避難訓練を行なってみられた。予定をして訓練を行なった場合との違いも分かったようだ。消防署の方からは、「訓練を繰り返すこと」についてアドバイスをいただいた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室へ入るときには、必ず声かけを行い気をつけている。	
			(外部評価) 居室のベッドで長時間を過ごす利用者に、職員は、みんなの集まる居間で過ごす時間を少しずつ作り、様子をみながら時間を増やし自立につなげたり、他利用者とかかわり作りも支援された事例がある。又、利用者のお好きなことを見つけて行なえるよう支援され、短歌を作り新聞に投稿してみる等、楽しみごとを作っておられる。ご家族から「ばあちゃん」「じいちゃん」、名前で「～ちゃん」と呼んでほしい等の希望がある場合は、職員は、「親しみを込めて」、その通り呼ぶ場合もある。職員の利用者への言葉かけや言葉遣いについては、時々、配慮が必要と感じるような場面がみられる。	利用者のペースや意欲を尊重したサポートを続けていかれてほしい。又、職員の利用者に対する声かけや対応について、利用者の立場に立って点検する機会を作り、配慮や工夫に取り組まれてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴の姿勢を基本とし、プライバシーに配慮して場所を変えて、話しやすい雰囲気作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事、おやつ以外は自由に過ごしてもらい、声かけ、見守りを欠かさないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の意思を尊重しながら支援している。季節にそぐわない服装のときは、一緒に選んで身なりを整えるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事中はBGMを流し、利用者と職員で食卓を囲んでいる。	
			(外部評価) 職員が交代で献立を立てて食事を作っておられる。居間のホワイトボードには、夜勤職員が昼・夕食のメニューを書いておられる。できるだけ、ご自分の力で食事ができるよう、職員は手を出し過ぎないよう気を付け、利用者と同じものを食べながら見守っておられた。1つのおかずだけを食べる利用者に職員は、「このおかずも美味しいよ」とすすめておられた。居室窓の外側には、グリーンカーテンを作り、収穫したゴーヤは食卓に上るようだ。麺類が好きでない方にはおにぎりを付けたり、朝食は、利用者の希望で、ごはんかパンか選べるようになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの活動量に合わせて、摂取量を調整している。体調によって摂取量が不足している時は、栄養剤を補給している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは必ず行い、介助の必要な方は自立支援を考慮し、声かけしながら介助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 立位保持が段々困難になってきている利用者が多くなったが、トイレで排泄できるように、下肢の運動を取り入れたり、排泄チェック表を利用し、パターンを掴んで失敗が少なくなるように支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所では、「トイレでの排泄」を方針にして取り組みをすすめておられる。おむつを使用して入居となる方が多いが、一日1回からトイレで排泄できるよう支援し、排泄チェック表を付けて、傾向を掴み自立に向けた支援に取り組まれている。車いすを使用する方がトイレに入りやすいように、利用していない時にはトイレを開けておくようにしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 水分補給に努めたり、歩行、体操をして運動不足にならないようにしている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 基本、時間や曜日を決めて入浴しているが、利用者に合わせて、シャワー浴や足浴も行っている。</p> <p>(外部評価) 現在は、週に2~3回入浴するよう支援されている。夏場は暑いいため浴槽で温まることは望まず、シャワーのみを希望する方が多いようだ。男性職員は力があるため入浴介助、女性職員は食事作りと担当を決めて支援しているユニットもある。女性利用者の中には、男性職員の介助を良くは思っていないが、入浴できることについての楽しみの方が大きいような方もいる。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 部屋の明かりや、温度に気をつけ、安眠できるように支援している。また、シーツ交換や清掃をきちんと行い、清潔を心がけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師、看護師の指示の下で、目的や用法、容量を正しく理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の気持ちを大事にしながら、出来ることをしていただいている。居室にこもりきりにならないように、リビングや中庭などに出てきてもらい、気分転換をしてもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの行きたい場所に全て応えることは困難であるが、家族の方にも協力してもらっている。	
			(外部評価) 「行事・外出支援計画書」を作り、支援につなげようと努力をされているが、実際に外出する機会は少ないようである。春には、近くの松山市南部児童センターの屋上庭園でお花見をされた。 事業所周辺は資源の豊富な地区でもあり、今後はさらに、利用者個々の行ってみたい場所等も探りながら、出かけてみる支援をすすめていかれてほしい。時にはご家族もお誘いして出かけたたり、又、仲良し同士で出かけたたりするような機会も作ってみてはどうだろうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理の出来る方があまりおらず、施設でお小遣いを預かっている。買い物代行を職員がしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時はいつでも対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	各居室に温度計を置き、室温の調節をしている。日差しが強くなったら、すだれをかけ、過ごしやすようにしている。グリーンカーテンを施してる部屋もある。	
			(外部評価)		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	テーブルの配置を考慮したり、ソファをおいたりして過ごしやすようにしている。	
			(外部評価)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	使っておられた家具やテレビ、仏壇などを好きなように置いてもらい、居心地良く過ごしてもらっている。	
			(外部評価)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	ユニット内は歩行の妨げにならないように、障害物は置かないようにしている。	
			(外部評価)		